【質疑応答】

≪調査報告書・再発防止に向けた取組について≫

ＲＣＣ　先日ですね，県〔教育委員会〕の契約をめぐる関係で，教育長が〔給料を〕自主返納するというような形で発表されたと思いますが，その自主返納はもうされたのかということと，あと議会等でもいろいろな厳しい質問等もあったと思いますが，進退についてのお考えに変わりないか，改めて確認させていただけますでしょうか。

教育長　改めまして，この度の一連の問題に関しまして，県民の皆様に多大な御心配と御迷惑をお掛けいたしまして申し訳なく思っております。お詫び申し上げます。今後ですね，全ての子供たちが右肩上がりに成長していけるように教育改革を進めることで，職責を果たしていきたいというふうに思っております。それから自主返納でございますけれども，日程がちょっと分かりませんけれども議会の閉会日に２か月〔分〕まとめて返納させていただいております。

≪高校入試について≫

中国新聞　先日，新しい形での高校入試の一次選抜が終わりましたが，改革した後での新たな入試が一次選抜という形で無事終わって，所感をお伺いできればと思います。

教育長　有難うございます。これから二次〔選抜〕をやっていきますので，全て〔入試が〕終わっているというわけではございませんけれども，今の段階で，大きな事故がなく終了できているということに関しまして，学校の皆様，それから関係者の皆様に厚く御礼を申し上げたいなというふうに思っております。今回，自己表現という形でやらせていただきまして，これも新しい取組でございましたので本当に今までどおり先生が所見を書くのがいいのか，それともこの自己表現がいいのかという，ここの検討はこれからさせていただきたいと思っておりますけれども，概ね，いろいろな校長先生に少しお聞きしたところによりますと，例えば自分の作品を持ってきてですね，一生懸命それについて語ってくれたりとか，あるいは習い事であるピアノを弾いている様子なんかをタブレットで見せてくれたりとか，子供たちなりに一生懸命考えて表現をしてくれたというふうに思っております。ある学校では，だいたい〔受検者の〕３分の１ぐらいがタブレットを使って表現をされたと。それ以外でもいろいろなグッズを持って来られたり，スケッチブックで紙芝居風にやってくれたりしてですね，かえって自分の良いところに自分が着目をして表現ができたんじゃないかという生徒さんたちの声を聞いてですね，目的がその点においては達成できたかなと思っております。ただ，学校の方からしますと，特に受検者の多い学校に関しましては，今後いろいろ改善していかなければならない点というのがあるかと思いますので，これから，二次〔選抜〕をやっていきますので時期尚早かもしれませんけれども，来年度に向けて善処するところはするというふうに検討を図ってまいりたいと思っております。それにつきましては関係者の皆様に厚く御礼申し上げたいというふうに思っております。

≪調査報告書・再発防止に向けた取組について（続き）≫

共同通信　話が少し戻ってしまうんですけれども，契約の件で，先日３月７日に市民団体の方たちが住民監査請求をされているんですけれども，そういった市民の方から返還を求めるような声が出たことの受け止めと，その中で監査を経ずに契約を結んだ弁護士に対する調査っていうもの自体が監査をする前にそれをやったというのはおかしいんじゃないかというような主張をされているんですけれども，それに対する県教〔育〕委〔員会〕としての見解をお答えください。

総務課長　監査を経ずにといいますか，この件については一部週刊誌報道からいろいろなことを言

われておりまして，我々としても，ではこれは法的に大丈夫なのかどうかというところがですね，相当専門的な知識が必要な調査になりましたので，外部の弁護士に委託をして調査をしていただいたということでございますので，いわゆる監査で過去の事業がどうだったかという話とは少し異なると思っております。あくまでも相当専門的な法的な知識が必要な調査を本当に専門家にお願いをした，ということだと思っております。

共同通信　その対象になるような事案ではないというような認識でしょうか。

総務課長　調査の対象以前の問題としてですね，手続き的にたとえば，通常，監査で見ていただくのは，通常の起案ですとか通常整えられている文書を見ていただくというのが監査の趣旨だというふうに思いますけれども，今回指摘されているのは内部文書とかメールの中身とか，そういった本来表に出てこないようなものから少し疑義があるようなやり取りが見つかったということで，それは多分書類だけではなくて相当数の職員のヒアリングですとか個人の出しているメールとか，そういったものも含めて調査をした結果が今回のものでございますので，これと同じようなものを職員がやるというのは，なかなか難しいというふうに思っています。

共同通信　住民の方から監査請求が出たということ自体の受け止めを〔お願いします〕。

教育長　監査請求が出ていることは承知しております。今後，監査委員会それから地〔方〕検〔察庁〕の方から対応を求められれば全面的に協力してまいりたいと考えております。

≪高校入試について（続き）≫

中国新聞　先ほどの話に関連するんですけれども，公立高〔等学校〕入試で，今回，一次選抜の受検倍率が 0.99〔倍〕ということで，今までの入試制度の大枠が維持されてきた 2001 年度以降で見ると，１倍を切ったっていうことがあるんですけれども，この状況についてはどのように受け止めていらっしゃいますか。

教育長　志願倍率が年々下がっている要因につきましては，様々なことが考えられると思っております。たとえばですね，令和２年４月から私立高〔等学〕校の実質授業料無償化がスタートいたしました。これまで授業料等の関係で私〔立高等〕学〔校〕への進学を見送っていらっしゃった生徒さんが私立高等学校に進学しているということですとか，あるいは近年ですね，県内外の通信制の高等学校へ進学する生徒が想像以上に増加しております。たとえば令和４年度でございますけれども，県内外の私立の通信制〔高等学校〕に行っている生徒が 1,000 人を超えているというような実情もございます。新たな制度の下で実施する入学者選抜の初年度でございましたけれども，もちろん数的には〔受検倍率が〕1〔倍〕を下回ったということでございますけれども，その前も結局 1.00〔倍〕ということでギリギリでございましたので，数的なところで言うと，今回の受検倍率に大きく影響が出たとは考えておりません。

中国新聞　有難うございました。高校入試との関係では影響はないということなんですけれども，将来的な県立高〔等学〕校の維持・運営ということでは，なかなか厳しい数字だと思うんですけれども，こういう状況をどのように今後舵取りをされていく御所存かお伺いしたいと思っております。

教育長　現段階で二次〔選抜〕がございますので，早急に結論を出すということはできませんけれども，現段階で大きく定員割れとなっている学校を見ますと，やはり中山間〔地域〕が多いと。ということでですね，やはりここについては考えていかなければならない点も多いかと思います。ただし，やはり中山間〔地域〕の高等学校につきましては，それ以上に地域の要望・要請あるいはそこに住んでいる生徒さんのためというような別の要素があると思いますので，これは拙速に，だからと言ってどうするということはできません。倍率

だけを見るのではなく教育内容の方で，やはり私どもは生徒さんのために力を付けるべく頑張っていきたいなというふうに思っております。

≪図書館リニューアル事業について≫

中国新聞　連続してすいません。また話が変わるんですが，県立高〔等学〕校での図書館リニューアル事業について１点お伺いがあります。先日の予算特別委員会で，県教〔育〕委〔員会〕が指導をお願いしている赤木さんの指導に基づく図書館リニューアルについて，現場からはいろいろプラスの意見だけではなくて，疑問や不満の声があるということについて指摘された県〔会〕議〔員〕に対して，そういう声についても存じ上げておりますと教育長が答弁されたんですけれども，たとえばどのような声を把握されていて，そういった現場からの声を教育長としてはどのように受け止めていらっしゃるのかということを教えてください。

教育長　今回のこの図書館の件につきましては，改めてこちらの方で御説明させていただきますけれども，説明不足であったと反省しております。たとえば大量廃棄につきましても，ここ 15 年ぐらいですね，いろいろな学校が捨てている数を調査しましたところ，ほとんど捨てていないんですよ。０冊，もしくは１年で数冊。こういった年がこの 15 年間，私が着任するまで続いておりました。ですので，全ての県立学校，当時 102 校ありましたけれども，全部，私も図書館見ましたけれどもぎゅうぎゅう詰めでですね，新しい本を入れようと思っても入らない状況だと。一部，一生懸命やっているところでも入り口のところをちょっと新しい本を置いて，奥に行くとまったく古い状況で埃が被っていて，触ったら指紋がつくというような状況でございました。ですからそこの 15 年間捨ててこなかった本を，改めて精査をして捨てたということです。これも各学校に聞きますと，どれを捨てたらよいか分からないというようなお悩みがございました。本県はちょっとどういうわけか分かりませんけれども，私が着任してびっくりしたのは司書がいないというようなことがありましたので，今，司書を増やすべく一生懸命やっておりますけれども，ですが，この司書も，司書になったからといって本を必ず捨てられるスキルがあるかというと，だいたい 10 年ぐらいかかるんですね，育てるのに。それでやっと本を捨てられるスキルがついてくるというふうに思っておりまして，大量廃棄したと言うと，県民の皆様がもったいないと思われると思いますが，今まで捨ててこなかった分，断捨離をして，そして新しい本を入れるなど，とにかく活きた場所にするということでやらせていただいている次第でございます。それと結局本が入らないものですから，年間だいたいどの県立学校でも 70 万円前後，〔図書購入費として予算を〕配当しておりましたけれども使い切ってないというような学校がほとんどでございました。こちらは本を買ってもらいたいと思って配当しても，本が入らないから新しい本を買わないなんて，生徒にとっては不利益であるというふうに思います。それから，高校生に合わない小学生向けの本や紙芝居などを買われてるということで，御批判を受けておりますけれども，御存知のように高校生の中でもですね，難しい本を全ての生徒が読めるわけではなくて，やはり学習障害とか発達障害，それから学び直しのお子さんがたくさんいます。小学校・中学校で本を読んでこないのに，いきなり高校に行ってから難しい本を読めといっても，これはできるものではございません。たとえば三原東高〔等学〕校で，何年か前に図書〔室〕の改装をやりましたけれども，初め，絵本とかあるいは簡単に読める本も取り揃えた結果，入学したときは全然本を読まなかった子も，三原東高〔等学〕校の子供たちは，１人につき１か月に２・３冊，それも歴史とかサイエンスとかこういう本をたくさん今読むようになっております。遂には三原市立図書館にですね，三原東高〔等学〕校の生徒たちがお勧めする本のコーナーなんかも並べてですね，作っております。それぐら

いやっぱりこの段階というのが必要になってくるというふうに思っております。そしてまた，ぬいぐるみなんて高校生にとっては幼稚なんじゃないかという御意見も分からなくはないですけれども，かなりこのコロナで子供たちの心は痛んでおります。実際に図書館を見てみると，カエルのぬいぐるみが真っ黒になっている学校もありまして，じーっと観察しておりますと，休み時間に来てですね，男の子もですよ，ぎゅっとぬいぐるみを抱っこして，はあ，と言ってから教室にまた戻ると。心のオアシス的な，そういう要素も図書館にはあると思っております。

ではなぜ赤木かん子さんにやっていただいたかっていうと，このように立場の弱い生徒さんにきちんと向き合ってくださるからです。そこはすごく大事なことだなというふうに思っております。それから最後にですね，赤木かん子さんの書籍も入っているんじゃないかということにつきましてですけれども，入っておりますけれども，赤木さんの本は県立におきましてはLLブックという，フィンランド語で誰でも読めるっていう意味なんですけれども，たとえば外国籍で日本語が達者じゃない子とか，あるいは知的障害がある生徒さん向けの本でございまして，文部科学省の方からも，ガイドラインでこれは支援の観点から，整備することが推奨されておりますけれども，残念ながら日本の出版社っていうのはなかなかこのLLブックっていうのを出版してくれません，お金になりませんので。で，赤木かん子さんがしょうがないから作ると。海外であればすごくたくさんあるんですね，このLLブックって。県立図書館にも，一部，なるべくたくさん置いておりますけれども，こういうLLブックなんかもやはり置こうと思うと，赤木かん子さんのものじゃないと。こういったことを，事あるごとに説明してきたつもりでございますけれども，足りていなかったと反省しておりまして，全ての教職員の方，あるいは県民の皆様にこれからは説明をさせていただきたいなというふうに思っている次第です。

中国新聞　有難うございました。すいません，関連で１点だけ。先ほど赤木さんにお願いした理由っていうのを一つ教えていただいたんですけれども，もう一つ，赤木さんによる図書館リニューアルでは，赤木さん考案の独自の分類法というのが採用されていて，それに必要な赤木さん考案の分類シールっていうのを各校が購入して活用されていると思うんですけれども，リニューアル作業が一旦終わった後も，新しい本を購入する度に埼玉福祉会から各校がシールを購入して全ての本にシールを貼っていくというような作業が必要になるので，影響は長く大きくあると思っています。そういった赤木さんの独自の分類法や，赤木さんのところから絶対買わなければ手に入らない備品が必要なことも踏まえて，そこも必要だということで県教〔育〕委〔員会〕としては赤木さんにお願いをしてらっしゃるのでしょうか。

教育長　シールにつきましてはですね，これは学校の判断で，ある一定のところまでは分かりやすくやったとしても，それ以上続けるかどうかっていうことは，これは学校の判断だと思っております。現に，私も校長の時に改装しましたけれども，続けませんでした，それは。司書がいなくて不可能だったのでやりませんでした。それはもう学校の御判断でいいかと思っております。それから分類方法につきましても，NDC（日本十進分類法）が基本でございます。が，NDCができたのはもうかなり前の話でして，その時は「核」というものとか，あるいは「防災」，こういった概念はございませんでした。ですから，それについては別置，別で置くというふうなことで別置をしていると。ですが，基本はNDCです。別に赤木さん独自の分類法なんてございません。そこの誤解もですね，説明をさせていただくことによって，当時なかった概念，たとえば「核」っていう概念とか，あるいは「防災」っていう概念も，なかった概念を別で置いて別置すると。こういうことですから，そこを丁寧に御説明する必要があったかなと思って反省をしております。

中国新聞　分かりました。独自の方法ではないとおっしゃいましたが，やはり赤木さんが考えられたNDCを基にした分類って意味では，赤木さんの理論だと思っているんですけれども，そこも踏まえた上で，赤木さんの理論と実績も踏まえて選ばれたという理解でよろしいですか。

教育長　独自のというか，たとえば原爆の本はどこに置くんでしょうかね。置くところがないんですよ。昔そういう概念がなかったので。ですから，基本はほぼNDCだと思っております。その上でですね，本来であれば広島県の全ての学校に司書さんがいて，何年もずっと改装し続けていればよかったのかもしれませんけれども，残念ながら15年前のデータですけれども，15年前から全く捨てていないという状況があって，結局死んだ図書館になっていますから，子供たちも来ないと。これは私の持論でございますけれども，本嫌いの子供はいないと。あるとしたら学校図書館に読みたい本がないだけだと。という持論がございますので，読みたい本を整えるということで，この現状を少しでも打破したいというふうに思ったものですから，ほぼこれ自給自足というかですね，私中心に教育委員会の皆さんが寄附を募ってですね，「学びの〔変革推進〕寄附金」でこの図書館の改装もやっております。一部の議員さんからは，そんな良いことをやっているんだったら税金使ってやったらいいじゃないかというふうなお話もございましたけれども，象徴的に幾つかの学校をやって，そしてそれを基に自分たちで考えて改装なり，子供たちにとっていい図書館づくりをしていく，これが趣旨でございますから，全部が全部その赤木かん子さん風になる，それはやっぱりおかしいことなんです。ということもありまして，ちょっと今手元にはございませんけれども，やってきた図書館の改装費のほぼ全ては「学びの〔変革推進〕寄附金」で，私もいろいろな会社の社長さんとか経済団体にお話して，心ある方々から何千万〔円〕とかあるいは億に近いお金もいただいてやっております。そういった形でですね，何とか現状を，子供たちが本を読まない，そういう死んだ図書館になっているということを打破したいと思ってやってまいりましたけれども，なかなかに全ての教職員，16,000人ぐらいいると思いますけれども，その方々にこういった説明をさせていただく機会もなくて，機会を見つけてやっていたつもりですけれども，本当に足りていなかったなというふうに思って反省をしております。なので，これからは県民の皆様に，きちんとそういう説明をさせていただいて，改めて今後につきましては，今，やり方をもちろん検討しておりますけれども，とにかく図書館はすごく大事だと思います。今チャットGTPとかいろいろ出てきておりますけれども，子供たちが本を読むというのは，やはり自分が知識を得るだけじゃなくって，知の探究をするっていう良さがございますので，その環境づくりをやっていくのは大人しかできませんから，学校を中心にですね，教育委員会それから地域の皆さん，それからPTAの皆さんなんかにもお手伝いをいただきながら，お金を出すか手を出すか，どちらか分かりませんけれどもとにかく皆の力でですね，広島県の子供たちのために素晴らしい図書館を作っていきたいなというふうな気持ちでおります。

中国新聞　ちなみに，全てが全て赤木さん風になるというのはおかしいというふうな今御発言でしたけれども，たとえば今までやってきた中で，それぞれ学校にも，うちの生徒にはこういうことが合うんじゃないかとか，うちの学校にはこういう形が合うんじゃないかとかいろいろな御意見が現場から出た場合，そういうことを反映させようという姿勢や思いというのはおありだったんでしょうか。

教育長　もちろんです。ですからそこは改装の時に言ってくだされば よかったんじゃないかとか，あと捨てる時もですね，〔学校が捨てたくないと判断したものについて，〕赤木さんが捨てろっていうふうなことは一切言っていません。書庫というか別のところに置いて，そしてもし必要であれば拾っていけばいいんです，先生方が。最後決めるのは，廃棄するかどうかというのはやはり学校の御判断です。私も同じような経験がありましたけど，これは今ちょっ

とこの図書館には向かないねと。書庫というのはありませんでしたので，１個空いた部屋にバンバンバンバン入れていましたけれども，先生方に言ったのは，この中で教科として必要なこととか，あるいは部活，いろいろなところで必要だなと思ったら，いついつ〔に〕捨てますから拾っていってくださいと。それこそ別置してくださいと。別で置いてくださいと言いました。そしたらですね，美術部あるいは美術科の先生が，この本は宇宙の本でしたけれども，未だに冥王星が太陽系だというふうに載っているけれども，知識としては間違えているけれども，あと動物の本とか植物の本について，もしかしたら知識としては間違えているかもしれないけれども，デッサンとか絵を描く時に，必要になるからこれじゃあ図鑑貰っていきますと，ドサっと美術室の方に持って行かれたりしましたし，それでよいというふうに思っております。ですから，そういうチャンスがあって，これは捨てては教科的にもったいないと思われるものは，どんどんどんどん拾っていっていただいて，お使いになっていただく。これは，現に図書館づくりと，その教科や部活で必要というものとは少し別の次元だと思っております。

中国新聞　多分現場で意見を言った時に，それが何か通らないとか叱責されるというようなことがもしあったのなら，そういうところから萎縮や忖度が生まれたのではないかなって推察していたので，そういったことはなかったっていうことですよね。

教育長　ないかあるかどうかは，私もその現場に居たわけではございませんので分かりませんけれども，御意見ですから今後はそういうことがないように，必ず拾っていただく時間というかですね，そこは担当課から学校にそういう時間を設けてくださいと言ったか言ってないか分かりませんけれども，そういうマニュアルにしていけば問題はなくなるんじゃないかなというふうに思っています。とにかく学校図書館というのは場所が狭いですから，狭い場所にですね，自分の学校の，たとえば高校生だったら高校生に合う本を置かなきゃいけないわけですよ。それは蔵書数じゃないんです，やっぱり。たとえば蔵書数を争うっていうのは国立図書館とか県立図書館なんですよ。ですが，この学校の校風に合っているかというのが一番重要でして，出し入れしていかなきゃいけないんですね。たとえばこれ，図書館づくりをずっとやっていきますと，子供の本に対するレベルがすごく上がってきます。私も校長やってる時に哲学の本を読んでもらいたいなと思ったんで，漫画で全部用意したんですよ。そしたらですね，子供たちから半年ぐらい経った時に，校長先生，こんなんじゃあ納得いきませんと。原書を置いてくださいと言われて，ニーチェだとかいろいろな原書をですね，上と下に置いたんですよ。初心者は漫画本を取る。で，漫画本を卒業した人は原書を取る。こういうふうにレベルが上がってくるんですよね。そしたらやっぱり置く本もどんどんどんどん変わってくる。これは年々やっている 70 万円の中でだいたい 100 万〔円〕あればですね，だいたい 800 冊買えるんですね，本て。経験的になんですけど。ですから 70 万〔円〕だと，高校生ですからちょっと難しい本もあるでしょうから，４～500 冊ぐらいは買えるでしょうから，その中で自分の学校の子供に合った本をやはりどんどんどんどん入れ替えをしていく。そして，これぐらいだったらちょっと難しいかなと思ってもぶつけてみる。手に取る。あ，手に取ったんだ。ここまで成長したんだ。じゃあもう１個ちょっとぶつけてみるっていうこのやっぱりやり取りは，司書さんじゃないとできないんですよ，日常の。１回だから改装したからといって図書館というのは出来上がるものじゃなくて，未来永劫ずっとそこの生徒の様子を見ながら対話をし続けていく。それで出来上がっていくものだというふうに思いますので，それには人も必要だし，そういう思いを持った司書さんを育てるということも必要だし，そこに行きつくまでには困難なこともあるかと思いますけれども，それは全て子供たちのためというふうに思いますので，是非ともそういう図書館づくりになるようにと思っております。

中国新聞　　分かりました，有難うございます。この間の外部調査の問題で，いろいろな問題の背景に風通しが悪いというか，自由な意見が下から上に言いにくかったっていうことが指摘されていましたけれども，この図書館リニューアルに関して現場からいろいろな御意見が出ている背景には，風通しの良さ・悪さという観点で言うと，ちょっと悪いというような点もあったのではという声も取材で聞いていて，そういうところの問題意識というのはおありでしょうか。

教育長　　そういう点で申し上げますと，私が広島県教育委員会に着任した時にどうだったかと言うと，まず教育長レクというのを受けるわけですけれども，各部が私の前に来られて説明してくださるわけです４月１日から。全部原稿棒読みですよ。ちょっとびっくりして，今何を読んでいるんですかと。全部とは言いませんけれども，結構多くの説明者の方が原稿を読んでらっしゃって，私の持っている書類と貴方が持っている書類違うよねと。それは何かと聞くと原稿ですと。課長に見てもらいましたと。何か変なこと言いましたでしょうかと。私に説明するだけでそういう感じなのかと聞くと，すいません，原稿ですと。いやもうそんなのいいからと。もう普通に説明して普通に対話してくれたらいいよと。というふうなところで，そこから始まってすごくびっくりしたわけですけれども，ただ，じゃあこの５年間の間でですね，全て〔意見等が〕言いやすい環境づくりとか，教職員 16,000 人，教育委員会だけで 500 人ぐらいスタッフがいるでしょうから，その人たちが本当に言いやすい環境〔づくり〕ができたかと言うと，それはもう私の不徳の致すところでそれはできてなかったから，こういうようなことになってしまったと，これは大いに反省しておりますけれども，なかなかにですね，どうやったらこのヒエラルキーというか，自由闊達に〔意見等が〕言えるようなメンタリティとそういう組織風土づくりができるかというのは難しいところはありますけれども，御指摘も受けましたのでそれはもう何とか頑張っていきたいと思っております。先生方が言い辛いからなのか，それはちょっとよく分かりませんけど，とにかく言いやすい，それから意見を出しやすい，そういう組織づくりを何とかこの広島県教育委員会，あるいは広島県の学校でですね，というのは子供たちが見ていますので，やっぱりそれは会社なんかでもそうですしどこの組織もそうですけど，子供は本当によく見ていて，大人の社会って平等とか言って変なの，となったら困りますので，何とかそれはやり遂げたいなというふうに思っております。